

刊夕 日八拾月二



定価 一部全席一ヶ月五拾五圓 郵費別
廣告料五圓 印刷一圓 電話一圓
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常警毎日新聞社
印刷所 常警毎日新聞印刷株式会社

『本日』の自序(二)

川崎君に呈す
安・倍・季・雄

私は先づ、此の二人の日本兵が、日頃から親思ひの青年であつた事を伏線にしたいと思つて、正木不如丘博士の「臍の悲しみ」の一節を持つて来たのである。

「新らしく出来上つた満洲帝國、都、新京から一、二、三、と敷へて、七つめの驛が公主嶺、その公主嶺には日本の兵隊さんが百七十人ばかり居る。其の守備隊の中に、川合上等兵、藤澤上等兵といふ二人の兵隊さんが居りました。」

ノート

植物の長
壽は槍、杉、樺で
何れも一千年、松は八百年だ。貝類では車渠貝が百年も生きる。

こゝまでは極めて平凡だまはりくどい言ひ廻しをしないで、満洲の……といへば、子供達の頭の中に、直ぐにピンと来るからである。大切なのは主人公だそこで其の兵隊の性格、容貌をハッキリ印象づける爲

めに、私は誇張法を用いたのである。

「川合上等兵の身のたけが二米もある。まるで野中に立つた電信柱のやうに見える。人呼んで電信柱の兵隊さん、電信柱の上等兵さんといふ。もう一人の藤澤上等兵は、身の丈が一米半位しかない。その代り横ツちよに二メートルもある。人

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

【朝】味噌汁—豆腐 小付
五目煮 人蔘 牛蒡
昆布 蓮根 糸こんにやく

【晝】揚物魚はか—漬
【晩】酢の物 いかのあし
若芽 三杯酢
いかつき漬

呼んで蟹の兵隊さん、蟹の上等兵さんといふ。」
仇名はいけないと、沖野岩三郎君から叱られるかも知れないが、こんな無邪気な程度なら差支ないと思ふ

「お話は昭和五年の十一月四日、満洲事變の一年前だそれは近頃にならない寒い日でした。内地とちがつて、満洲には秋らしい秋はない。夏から直ぐに冬になる。九月を過ぎると時々バラ—と霰がふる。うら枯れた揚柳の葉がカラ—と風に鳴つて、何ともいへない淋し

さが湧く」
ちよつとこゝでしんみりさせて、それから伏線に入る。以下の會話は實演の時にはいろ—にかへる。

藤澤上等兵は空を見上げて
「おい川合、汝、今日はいやにボンヤリしてるな。どうしたんだ？」
「うむ、實は昨夜いやな夢を見てな。」
「夢？、どんな夢を見たんだ？」
「それがなあ、豚に臍を食はれた夢を見て、國に居るお母の事をしじみ思ひ出したんだよ。」
「なに、豚に臍を食はれた夢を見た？……それがお母と何のかははりがあるんだ？」

「おい藤澤、きさま臍といふものはどんなものか知ってるか。いやさ、どうして人間の腹のまん中に、臍ができたか知ってるかッてんだ」
こゝで、正木博士のヘンの話を持つて来て
「ヘンはお母さんの生き形見、母の恩を忘れないやうに、神さまが腹のまん中につけて下さつた大切な記念物だ」と話す。その話で藤澤も故郷の母を思ひ出して街道の真中であぐらをかき心ゆくまでヘンをながめて

居るところへ、中隊長の倉本大尉が通りかゝる。大尉が驚いて二人を詰問する。川合、藤澤の兩上等兵が例の「デアリマス」調で應答する。兵隊言葉には愛敬があつて、クスグリには持つて來いだ。子供は必ずどつと笑ふ。

看護婦急派
の求めに應
じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

耳鼻咽喉科専門
平田町（電話六九一番）
病室完備
自炊便有
山内醫院
醫學士 山内亨 吉

有給外務員數名募集
一、廿五才以上 經驗の有無を不問男女數名
固定給の外旅費支給す
御希望の方は履歷書持參來談を乞ふ
（明治十四年創立）
（保險の開祖）
明治生命保險株式會社
所長 小野 康
事務 勝 康
平 仲 康

貨切の御用命は
ぜひ。三井自動車部へ!!!
電話六八五番
◎乗合は好間、合戸、澤渡方面行
木炭代用
月星豆炭 一八キ口壹袋
金八十錢
阿部石炭商店

父堀江工業株式會社取締役社長
江口忠一儀 去月三十一日突然發病
し藥石其効無く今日午前八時五十分
死に去致し候間此段御通知申上候
追而明日午後二時不取敢茶毘に附し來る十
九日午後二時平町字長橋町性源寺に於て佛式
に依り葬儀相營可候
昭和十年二月二日
男
親戚總代 堀江 軍 二
堀江 口 清
堀江 定 一
堀江 木 唯 治
堀江工業株式會社代表

荆妻キン儀永らく病氣療養中の處藥
石効無く十一日午前十時十分死去致
候間此段御通知申上候
追而葬送の儀は來る二月二十日午後二時自宅
出棺平町字新川町照岸寺に於て佛式相營申候
昭和十年二月十八日
外親 佐々木喜平
戚 一同

吸入用酸素純度 99%
モノサシ 體溫計
マ ス 寒暖計
ハカリ 器量計
秤ノ取緒。垂糸。修繕致シマス
關内藥局
電話四〇番
寫真材料一式販賣致シマス

月曜是非

瞬く間に花時

地方人の生活形態の上に種々の意味で、最も交渉の多い舊曆正月もけふの鳥小屋送りや終りを告げた、けふ迄に年頭清新の氣を餘さず充分に呼吸した地方人の本格的昭和十年度の更生躍進は愈よこれから始る。

現て本年をあらゆる角度から、良い歳であらしめたのは、お互ひ共通の念願である、夫れには自から計劃と準備に萬遺漏なきを期すの用意が必要であらふ、要するに一ヶ年のプランの立て方の良否巧拙が運命の分る、岐路の焦点とも云ふべきである。

先づ正月を無事に送つた平町に、次いで来るべき粉飾的行事は観櫻期である、花が咲きかけて泥繩式の狼敗に終始する様では甚だ効果的でない、此の機會を捉へる平町の商家は一段の飛躍を試みるべく、今から何等かの方策を巡らして然るべきであらう。

流石に大衆相手の鐵道等は早いものでも観櫻景氣に對應する花見列車の企てが腕により掛けて準備成り手具すね引きつゝ其の日の来るのを今や遅しと待ち構へて居る、斯ふなると月日に追はるゝのではない、月日を追つて居るのだ、守勢よりも攻勢に勝味が多い、従つて追はるゝよりも追はる者に勝者たり得る可能性が

確實である、誠に範として學ぶべきである。

殊に今年には満蒙と國防博覽會が花況に一層生彩を添える好條件を備へて居る事に依つても期待の大なるも

平紹介所が農村に觸角

グンと伸ばして一般の便宜を圖る

平職業紹介所は郡下農村の紹介成績を向上せしめる爲め過般聯絡町村當局と協議した結果從來農村の求人側や求職者は平町迄出掛て来なければ申込みが出来ぬ不便があり折角纏つた就職口も二三里離れた雇主方を訪

醫藥の分業は国情に適せぬ

松村醫師の報告

目下問題となつて居る醫藥分業に關し本郡を代表して全國醫師大會に臨んだ松村鐵郎氏の報告は左記の如くである

本會は去る十二日上野精養軒に於て約五千名の醫人出席空前の盛況裡に開催されました。其の日朝來より霏々として降りしきる雪を蹴つて全國醫界の代表は遠く東北及北海道、西は沖繩より續々會場指して馳せ参りすがの廣い會場も立錐の

のあり、今から準備工作に萬全を構すべく平町商家の一考を煩す上に於て奮かならん事を乞ふや切なるものがある。

ねる頃は既に他から雇濟となつて居た等の例も屢々あるので同紹介所では本年から連絡町村役場内に紹介事務の取扱所を新設し村内求人就職の申込を受け付けを電話か書面等に依つて平職業紹介所と速やかに連絡を取

餘地なく醫界未曾有の大盛況を示し午後一時を過ぎる二十分此の歴史的大會は君ガ代の合唱と共に實に實に嚴肅の裡に開かれ、會長北島多一氏は開會の挨拶をなし、亞いで政友會總務、民政黨總務、國民同盟代表諸士が醫師會側に最も有益なる激勵的演説があり次で衆議員議員一杉定吉氏外十名より熱誠溢るる、

應援演説がありまして、會場は一層緊張眞剣味を加へられました。會議は豫て定められた次第に従ひ、後記の如き悲壯なる決議をなし直ちに各地より實行委員數十名を擧げて内務大臣並に各政黨總裁、總務及地方代議士諸士を訪問し我が全國醫師大會の趣意書及決議宣言書を提出し本會員の誠意のある處を示し

り便宜を圖る事となつたが取扱所を新設される町村左の如くである

- 草野 高久 豊間 夏井
四倉 江名 神谷 三坂
澤渡 平窪 好間 小川
川前 大浦 赤井 大野
鹿島 内郷 永戸 箕輪
湯本 植田 勿來

体操教材研究 平第二小學校職員一同は今十八日午後二時半から同校講堂に於て体操の教材を研究した

高齢者の喜び

御下賜品傳達式

として今回皇太后陛下より眞綿一包御下賜の光榮に浴した北白銀町四〇〇白土正志氏祖母白土トモ(九)媼に對し町役場では來る廿日午後一時より町會議事堂で御下賜品の傳達式を行ふと

關口判事叙勳 地方裁判所平支部豫審判事關口緝氏は此程高等官四等に叙せられた

平商に交附金 平商は此程縣より八百三十二圓の實業教育補助費を交附された

平町人事

△新川町一 當時栃木縣鹽谷郡氏家町菊地義雄氏

四男章 △紅葉町七八 安藤本吉氏 四男昭男 回 婚 姻

△北目町 當時東京市淀橋區東大久保二丁目氏田代藏氏(三四)勿來町窪田新井田タキ(二八)

十錢日掛で蓄音器が買へます

レコードはメトロ

蓄音器の修理は實費でいたします。春の宵にふさはしい。安いの奉仕する一坪の店。平町四丁目

名曲レコード(五枚一組)

宣傳のため一晩十錢でお貸いたします。ハガキで申下さい、お電話頂いても順番が御座いますからその日にお届け致します場合も御座います

メトロレコード店

電話(呼)二一四番

張を加へ、會員各自の溢る勇氣と一大決意を以て満たされ、吾人の主張を貫徹せざれば止まざるの氣勢を示されましたが午後五時三十分満場破るゝばかりの大拍手の中に閉會は宣告されました。次に不肖私が今回大會に出席しました所感の一端を御参考までに申し上げたいと思ひます

各實行委員長の訪問記報告及各來賓諸士の熱誠なる意志發表等を拜聴致しますと今回第六十七帝國議會へ提出せられんとしつゝある

藥劑師法 中改正法律案(所謂醫藥強制分業法)は(一)の保健衛生を益毒するもので國民經濟の見地から

冷靜に且公正に、前後表裏の關係を觀察究明して見ますと全く我國情に適せざることは極めて明瞭であるのみならず、現在の任意分業制度が最も國情に適して國民保健經濟共に有利であるにも拘はらず徒らに此れを改正するが如きは其の必要は少しも認めないと云ふ意見が何れも合致して居るのであります。尙又今回提案の醫藥強制分業案なるものは武智代議士の發言であつて同士の知己有志間に於て劃策サレ小數の賛成同意を求めたるものであつて規定の定數三十名に達しないのみならず、其の後本案に

贊成調印したる代議士等が毎日調印を取り消しつゝあると云ふ内情で、今日では極めて小數の贊成者が残つて居るばかりだと云ふことや、其の他有力なる數個の條件を見ますと本案が第六十七議會に斷然上程されないことは疑ひを入るべき餘地がないことであると思ふのであります。尙ほ御参考までに全國醫師大會の決議を御知らせ致します。本大會は醫藥分業の強制實現を主眼とする藥劑師法中改正法律案を以て本邦固有の淳風良俗を破壊する惡法案と認め極力其の不成立を期す

本郡名譽の戦死者

大平上等兵は孝行息子

草野村大字 下神谷字六 十枚馬場塚 六之助氏次

男滿洲獨立守備隊第六大隊 第十中隊上等兵大平正二君 (三)は現役志願で去る十五日野田大尉の卒ある永岩○隊の先發隊に加はり韓安縣城西北七里の大荒溝で紅軍匪二百名を攻撃中名譽の戦死を遂げたが同君は御下賜

正月も過ぎて

始業時間元に戻る 舊正月中の平町各小學校は毎日午前九時始業であつたが明十九日より従前通り午前八時三十分始業復す由

二千の組員

平町で検閲

期日は四月十九日

既報平署管内消防組頭會議の結果本年度春季聯合檢閲は四月十九日午前八時より警中グラウンドに島田警察部長臨席の上舉行、管内二十二組人員二千名の點檢調練を行ふ事に決定した

電気職工

金物ドロ

小川村大字上小川字根岸六生れ當時住所不定電気職工草野一郎(三)は去る十四日の夜平町新川町木村電氣商店倉庫に忍入り銅線廿六六圓を窃取して逃走した外植田町昭和入絹會社より十四番新銅線五百尺時價四十圓

平商書畫展

卒業式當日に

既報平商の書畫展覽會は來る三月十二日の卒業式當日開催一般父兄に觀覽せしむる事になつた由

佐々木家不幸

研町大工頭梁佐々木喜平氏夫人キン嬢は十一日午前十時十分逝去、廿日午後二時自宅出棺新川町照岸寺で葬儀執行の筈

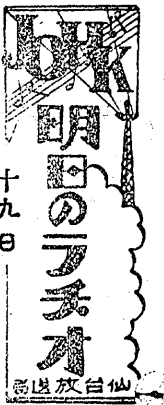
時計専門窃盜

茨城縣多賀郡大津町村田自動車店助手柄木縣那須郡湯津上村生れ小室初太(三)は去る十五日小名濱町料理店スマ屋方で同家の女中加藤ハツノ金銀付懐中時計(時價七十圓)の品を窃取入質した事發覺平署に檢舉されたが時計専門の餘罪が數件あると

愛の藏の八尺

片破れは何處?

簡易保險健康相談所々長の國井醫學士は八尺の妙手だ一日中殆んど閑暇なく患者を診察相談に應じて疲勞し切つた際にも秘藏の加藤雄童作の尺八を愛撫吹奏する事に依つて脈々たる生氣を取り戻す、去る十六日にも出勤前の數時刻を南町の琴曲師匠鈴木佐喜勇さんの琴と心ゆくまで合奏し午前十時頃平署前を経て相談所に至る間、尺八の下部半身(同尺八は中間部接合してある)を不覺にも失して終つた、サア國井所長の落膽は一通りでない、夜間もオチ／＼眠れぬ程、尺八の片破れの行方を心配し



明日の天気

今晩も明日も北西の風天氣良し

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
名作物語「ピノチオ」日本放送児童研究會
後六、二五 基礎英語講座
(二)岡倉由三郎
後七、三〇 民謡の夕 東

明日の部

京外六縣 連續ラヂオ小説「盲笛(終)坂東箋助
後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報
後七、〇一 基礎獨語講座

懸賞付で捜す

値のないものとして勿論警察署等へ届けはしないのでせうし、若しがして焚付けにでもされては大變と夫れが心配で耐りませんと語つて居る。若し幸ひに

晩酌の相手

女房虎になる

喧嘩の場句家出 毆つた亭主心配

裁判所たより

内郷村大字高坂字御殿日雇業金子利三内縁の妻竹田ヨシ(三)は去る十五日夜亭主の晩酌の相手をして居る内に泥酔し些細の事から亭主と口論を始め益を投げ付けたので大喧嘩となり散々打擲されて憤り同夜十時頃子供を連れて行衛を晦したが今度は亭主が心配になり本日平署に捜査方を願出た

△山形縣生れ目下住居不定前科三犯無職佐藤惣次郎(三)が白米専門に窃盜を働いた事件の公判は今十八日平區裁判所に於て開廷の筈だつたが係り判事の都合に依り延期された

△殺人罪になるがならぬかで注目されてゐた若松市中六日町生れ内郷村大字綴字

追ひ越さうと

婦人を轢き殺す

小名濱町のトラツク

小名濱町野田貨物自動車店の運轉手武田郭(三)はトラツクを運轉して昨十七日午前九時二十分頃安達郡石井村平石地内を疾走中前方の同郡岳下字七田戸川ヨシ(三)さんを追越さんとして轢き即死させた

平職紹介所報告

回人を求める方
△女中 二十迄 尋卒 五
△女工 二十五迄 尋卒 六
日給四十五錢迄
△探炭夫 四十位 日給一圓二十錢迄
△店員 十九才 尋卒 月六、七圓

一冊の代金

御希望通りな

五冊の雑誌

自由に讀める

川崎回文庫

電六三〇番 (申込次第規則書進呈)



明治太平記

(無断複製 上映及上演)

(作) 寺島征史
(畫) 野口 運

第五十五回

助太刀商賣 (十二)

「けだもの、毛皮でつくつた着物をまとふて、けだもの、肉を喰べて、けだもの、乳を呑んで、けだもの、やうに泥足で座敷へ上つて、けだもの、やうに人身の肌をなめ廻して、あゝ、いや、いや」

おとわは、憎悪にもえた眼で毛唐ではない井手を睨むやうにした
「では、そのけだもの、やうなパークス閣下をサヨナラしたらよいではないか」
「いゝえ、だからあくまで洋妾になつてやるんだわ、中途半端に、さんざ汚されたまゝ、放り出されるくらいなら、あのけだものたちの骨のずみにまで喰入つてやるわ」

「いけん。そらいふ了簡では僕がいや政府當局者がいよゝゝ困るよ、君の代りの美人をパークスに差上げることに手筈は出来てる、明日にも君は身を退いて貰はう」
「いやです」
「いやでも何でもさう決めてしまつたのだ、君の一個の意見ではどうにもならぬ

「いゝえ、あくまでパークスに喰ひ下つてやるわ」
「よし、そういふ無茶をいふなら仇討の事も徒勞になるぞ、僕等の手で邪魔してやるぞ」



が、それに應へたのは寢臺の下の男の聲だつた
「なアに、仇討はこつちが引受けてやるよ」
寢臺の下からのつそり這ひだしたといふよりか忽然として天から降つたといつたかたちで井手の前にぬつと突立つたのは助太刀稼業を誇稱する大志賀だ

「へえ」
あッとか、おうとかいはずに井手は、へえといつて二三歩後退した
「さ、君ア、何んだ」
大志賀は左肩をそびやかして
「おれか、おれはいは情夫さ」
「怪しからん」
「ほら、らしやめんが情夫を拵へては怪しからんといふのかい」
「パークス閣下の眼づまをぬすんで、おとわと戯れるのが怪しからんといふのかい」

「さういふおぬしとて、やはり忍んで参つたのぢやらう、しかも寢臺の下でさいてをるとは知らずに頻りとおとわに身を退けとすゝめてをつたではないか、パークスの鷲鼻が腹を立てるのはむしろおぬしにだ」
「うぬ……い、おとわ何

故君はこのやうな野人を引入れたのぢや
井手は仇めいたおとわの寢間着姿を忌々しげにみた
「だつて、この方いつのまにやら忍び込んでゐたんですもの」
「では追拂ふがよい」
「ところが……」
「どうしたと？」
「この方わりと親切なのよ、あんたのやうに口先ばかりでなしに眞實あたしの境涯に同情してゐるのよ」
「そ、そんなはじめて逢つた男の口車に乗るたんか」
「いゝえ、この方商賣づく

花環 花籠 蓮華
造花
新らしく
町川新平 橋本屋
電話一六三番

舊初賣後御禮
初賣御禮トシテ
「マツダ真空管」
ヲ特ニ割引販賣イタシマス
此際御買ひ求め下さい
日東商會
平町二丁目 電話四二八番

お醤油は……ヤマフル
醤油味噌 たりら 正宗 鯉節 食料品
鹽屋
金山崎合名會社
福島縣平町(電話營業部)製造工場
明治生命磐城代理店 山崎 與三郎

木村外科醫院
平町六丁目橋際
電話三〇九番

磐城共濟病院 (福島縣平町) 電話六四二番
小兒科 院長 石山謙一郎 (電話四四二番)
婦人科 部長 賀一忠 (電話三七〇番)
外科 部長 大町久藏
耳鼻咽喉科 部長 澤正
皮膚泌尿器科 部長 前
花柳病科 部長 山謙一郎 (電話二七二番)
X光線科 部長 山謙一郎
衛生試驗局 部長 高石山
藥劑局長 吉本孝利
藥務局長 鈴木木寶雄
◎ 毎日午前八時ヨリ午後十時迄診療
◎ 夜間診療開始(毎夜午後十時マデ)
◎ 病室完備 入院隨意

是非!
御融通には御用命下さい
萬事便利な御相談に應じます
三井質店
平四・電六〇六番